

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4472100595		
法人名	(医)二豊会 国見病院		
事業所名	グループホームやまもも		
所在地	国東市国見町小熊毛2695番地1		
自己評価作成日	平成22年7月7日	評価結果市町村受理日	平成22年11月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://ap.oita-kaigo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4472100595&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号
訪問調査日	平成22年8月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①毎月職員会議の後、全職員が事業所が必要としている独自の勉強会を開催して、内容等を共有しながら資質の向上を図り、ケアの実践へ繋げている。

②医療法人関連全職員対象の接遇研修を年6回開催する中で、礼儀作法の基本を取得し意識改革と資質の向上を図っています。

③QOL(生活の質)の向上を目指すように努めている。本人と共に過ごし支え合う関係を密に築くように努め、常に寄り添い(一日中寄り添い絆を結び)毎日リハビリ体操から心の歌を歌い、レクを中心とした個々に合った趣味を活かしたプログラムを取り入れ、充実した日々を送ってもらうように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・ホームの畑で利用者と共に数種類の野菜を育てており、新鮮な野菜が食卓を彩っている。

・利用者・職員共に笑顔が多く、明るく和やかな雰囲気である。

法人・事業所内で年間の勉強会の計画を作成し、外部講師を招くなどしながら職員の資質向上に向けた取り組みを行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている	運営推進委員会で理念を共有しています。「安全」「安心」「笑顔」「真心」「信頼」「地域との交流」の事業所独自の理念を掲げ、毎月全職員で理念の見直しと共有を図り理念の実践が図られているか確認しています。	毎月開催する職員会議で理念の共有や見直しを図りながら、日々のケアの実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の方々から励ましの声掛けや慰問があります。お接待行事を一緒に行ったり、お花のプレゼントを頂いています。小学校・保育園の慰問があります。ご詠歌や運動会等にも参加し地域との交流を大切にしています。	地区で毎月開催されるご詠歌や地域の盆踊り・お接待・運動会の参加している。また、地域の小学校や保育園の訪問を受けている。	これまで培ってきた地域との交流を元に、グループホームの役割を踏まえ、グループホームの役割や認知症などについて地域へ向けて発信したり、ホームの行事へ地域の方を招くなど、積極的な働きかけも期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の行事内容等を運営推進委員さんに報告し、地域と交流を深める協議をしています。老人クラブさん等へ認知症ケアの啓発に努めています。今では地元の方々の慰問やお花のプレゼントを頂いています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員に地元区長・老人クラブ会長・婦人部代表・民生児童委員・介護保険係・家族代表から構成され、事業所の行事内容等を報告し、地域と交流を深める幅広い対策を協議しています。	会議を定期的に開催し、グループホームの役割を説明している。メンバーからは、水害の避難場所についての意見などをもらうなど、サービスの向上に繋げている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員に市役所の介護保険係りが加わり、施設の事業内容や実態を報告申し上げ内容を共有しています。行政からの連絡や指導を頂き、常に連携と連絡を積極的に取り合っています。	他市からの入居希望者についての相談など介護保険関係の相談をするなど、行政と連携を図っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会の内容を職員会議で共有し身体拘束をしない取組を確認しています。特に身体拘束禁止部分や玄関等の施錠を含め身体拘束をしない圧迫感のない自由な暮らしの支援に努めています。	毎月法人で開催される、施設長が出席する研修会議の中で話し合われており、施設長が持ち帰り、全職員へ伝え、共有しながら、身体拘束をしない取り組みを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連法等を職員で共有し、全職員で最善の気遣いと注意を払い、事業所内で虐待防止に努め、虐待の無い安心・安全なケアの実践へ繋げています。			

事業者名:グループホームやまもも

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関連する法制度等を全職員で理解を深め、内容を共有し支援体制を整え、個々の必要性に応じ活用できるように努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約関係については、施設利用関連・重要事項・契約内容等を詳細に説明申し上げ理解と承諾を得ています。医療連携体制や重度化や看取り等々についても十分な説明を申し上げ理解を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員に家族代表が加わり、幅広い要望等お聞きし内容を共有しながら要望等大いに取り入れるように努めています。希望や要望が活かせるよう努めると共に家族会的な組織の立上げも考えています。	意見箱の設置や、家族の面会時に聞き取りを行っているが、意見や要望は出ていない。	家族会の設置やアンケートを行うなど、利用者・家族の意見・要望を積極的にすくい上げる工夫が求められる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議で基本理念や運営や管理等について全職員の意見を聞き、理念を実践する為の体制づくりを共有しています。全職員で施設運営の改善策を常に協議して運営に反映するように努めています。	日々の申し送りや毎月の職員会議で、職員の意見を出してもらいながら、日々のケアへ反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営形態(労務関係・給与・福利厚生)は医療法人二豊会で管理されていますが、施設内で働き易い職場環境の整備に向け全職員で向上心を持って働き易いように改善を図っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体での毎月全体会議や現在行われている処遇改善研修会や毎月の職員会議・独自の勉強会でしっかり勉強して、知識や技術を身に付け資質の向上を図り意思統一してケアの実践へ繋げています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人内では常に連携を保ちサービスの向上に努めています。他施設との交流については電話等で連携を保ち、グループホーム県連絡会での他施設交換交流会で交換研修を実施したいと考えています。		

事業者名:グループホームやまもも

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時に本人の希望や要望等についてお聞きし、安心して入所できるように努めています。常に寄り添い傾聴の精神で、本人の安心・安全を確保し信頼関係を構築して、サービスの向上を図るように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に本人の要望は勿論、傾聴の精神で家族等の希望や要望をお聞きし、家族の思いを受け止め納得と信頼して入所頂いています。安全・安心してお預かりする体制づくりに全職員一生懸命努力しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時に本人の困っていることや既往歴や要望等についてお聞きし、安心して入所できるように努めています。常に寄り添い今必要としている支援をしっかりと見極めサービスの向上を図る体制づくりに努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人がこれまで培ってきた生活環境や特技や趣味を活かした色々な事を一緒にしながら喜怒哀楽を共感しています。寄り添い支え合いお互いが協働し安心して和やかな人間関係を構築するよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	運営推進委員に家族代表が加わり、利用者や家族の要望等お聞きし協議しています。毎月ご家族へ手紙やほうれんそう新聞で事業の内容等々お知らせしています。面会も頻繁にきて頂くようお願いしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元とお接待を一緒に行ったり、お花のプレゼントを頂いています。時々ご婦人の方々の慰問や友人が来て一緒に歌を唄うなど交流を深めています。ご詠歌にも参加し馴染みの方々と交流を図っています。	入居者の地元のお接待へ参加し、友人も定期的に訪問している。また、家族と共に外出や外泊をすることが多く、その際に地域の方との交流を促している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日リハビリ体操や心の歌を唄ったり、絵や習字や計算ドリルやカルタ取り等皆んで一緒にを行い、毎日楽しく過ごせるよう支援しています。コーラスや大正琴やお誕生会に参加し関わり合いを大切にしています。		

事業者名:グループホームやまもも

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入所利用者様とは信頼関係・絆を大切にしています。例えサービスの利用(契約)が終了しても面会にお伺いして再度入所のお願いや、遊びに来て頂いたり、相談や支援に努め引き続き関係を大切にしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日、寄り添い関わりの中から、本人の思いや希望や意向を大切にしています。表情や顔色等で本人の身体状態の把握に努め、個々のペースに沿って本人本位の希望に合った暮らしができるよう支援しています。	日々のケアの中から利用者の思いや意向の把握を行っているが、記録はしていない。	把握した思いや意向は記録し、全職員で共有しながら、検討する事が求められる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に本人の生活環境に配慮して、既往歴や要望等をお聞きし、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めています。常に寄り添い必要としている質の高いサービスの向上を図る体制づくりに努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりに寄り添い関わりの中から、本人の心身状態の把握に努め、本人の意向を大切に 残存機能や有する力や現状を把握し、本人本位の希望に合った暮らしができるよう支援しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人本位の個別介護計画を策定し、6ヶ月毎に介護計画と実践の場のズレや改善点を絞り込み全職員で意見を共有しモニタリングを行っています。常に現状に即した介護計画の見直しを図るようにしています。	介護計画の作成や見直しは全職員で6ヶ月毎に行っている。	介護計画の見直しについては、6ヶ月毎の基本的見直しに加えて、毎月の見直しを行い、必要書類を作成することが求められる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別介護ファイル記録簿に、毎日の健康状態や食事・水分摂取・排便等々のケア実践の内容をこまめに記録し、ミーティング・申し送りで情報を共有しています。記録簿を基本に介護計画の見直しを図っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりに寄り添い、本人の心身状態の把握に努め、本人や家族等が求める現状に即したニーズに対応するように努めています。施設が開放的で柔軟なサービスの多機能化を活かすように取り組んでいます。		

事業者名:グループホームやまもも

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全で安心した生活が営まれるよう近隣・運営委員・警察・消防等の協力と連携を強化しています。行事や慰問等を通じて地元との交流を図り、野菜の苗を貰ったりして利用者が楽しく野菜づくりに懸命です。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診等については、本人や家族の希望を最優先に適切な受診ができるように努めています。医療法人にて毎週の回診や病院とは常に連絡・連携が図られ、何時でも適切な医療が受けられる体制が整っています。	かかりつけ医は本人の希望で選べるが、現在は全員同法人の病院が主治医となっており、毎週往診があり、医療を受けられるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者と常に寄り添い身体状態の把握に努めています。医療法人にて病院とは常時連絡が取れ医療体制が整っています。24時間体制で緊急夜間等でも病院の看護師が来て必要な看護をすることになっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関・本人や家族の意向を尊重し入退院時は安心して治療が受けられるよう情報交換や支援方法等について綿密な連携が図られるように努め、安全・安心して受診できるよう積極的な支援に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を配慮し最高のサービスが受けられるよう最大限努力しています。入所時から終末期に向けた方針や要望等お聞きし承諾を得ています。また、随時意向を確認し対応を検討しています。	「終末期の看取り等について」の確認書を作成し、入所時に本人・家族に説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日々利用者の身体状態の把握に努め、急変や事故発生時には慌てず適切な処置ができるように努めています。救急手当や蘇生術の研修内容を共有しながら初期対応の訓練方法も取り入れ実践に備えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害・風水害マニュアルを共有しています。防災関連については、火災報知器やスプリンクラー等の防災設備が整備されています。消防計画を策定し総合防災訓練や毎月避難訓練を実施して万全に備えています。	毎月避難訓練を行い、年1回消防署と合同訓練を実施している。また、区長や地域の消防団への協力を依頼している。	

事業者名:グループホームやまもも

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員で資質の向上を図り、言葉遣いや接する態度等に気配りし内容を共有してプライバシー保護の徹底に努めています。日々利用者の尊厳と人格・人権意識を尊重しながら実践へ繋がっています。	法人で作成した「心得」に謳われており、法人の研修会や職員会議を通して、プライバシー保護の徹底に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望や意向について、常に傾聴の精神で望み、要望が叶え自己決定ができるよう支援しています。常に寄り添い一人ひとりの生活リズムを理解しサービスの向上に努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	利用者が望む希望に合った一人ひとりのペースに合わせて毎日が有意義で安心と安全で楽しい生活が営まれるよう暮らし全体の支援に全職員が共有して取り組んでいます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意向を尊重し心地よい身だしなみやおしゃれができるよう支援しています。外出時の服装や髪の設定等に配慮し、本人の好みや生活習慣に合った支援に努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食事を味わいながら食事を楽しむ環境づくりをしています。配膳や後片付け等にも協力して頂いています。野菜づくりから四季折々の新鮮な採りたての野菜を美味しく頂き食の楽しさを実感しています。	法人の病院の栄養士が献立を作成しており、年2回嗜好調査を行い、献立に反映させている。また、ホームの畑で数種類の野菜を育てており、日々のメニューに加えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取については、一人ひとりの日々の体調健康状態を把握し、適切な量を確保するように努めています。水分摂取についても飲水量の確認を行い、水分不足にならないよう個別の支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後習慣的に歯磨きの励行を行っています。一人ひとりの力に応じた義歯・歯磨きの手伝いから入れば管理や口腔ケア・口腔内清潔に努めています。歯磨きの習慣づけをしています。		

事業者名:グループホームやまもも

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を参考に、個々の排泄パターンに応じた誘導や個別ケアに努めています。全職員が一人ひとりのサインを把握し適切な排泄に努め、できる限り自立に向けた支援を行っています。	排泄チェック表で個々のパターンを把握し、利用者の様子を見ながら声かけ誘導を行っている。出来る限りオムツを使用しないケアを心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	リハビリ体操を毎日取り入れ運動の大切さや体を動かす習慣づけをしています。排泄チェック表と日々の身体状態を把握し、個別ケアに努め自然排泄を促すように適度な運動等取り入れています。特に水分補給の徹底に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴パターンを一律は設定していますが、個々のその時々意向に沿って入浴の楽しさを感じて頂くように努めています。本人の希望を優先にくつろいだ気分で楽しく入浴できるよう個々にそった支援に努めています。	毎日入浴可能であり、週2～3回のパターンで入浴しているが、必要があれば随時入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々運動に励み日中の活動を盛んに促し、生活リズムを整えるように努めています。本人の自然な生活習慣や環境づくりから安心して安眠や休息ができるよう支援し、全員が気持ちよく眠れるよう努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が服薬ファイルや処方箋から薬剤の内容を把握しています。一人ひとりの薬剤を確認し的確に服薬の支援に努めています。毎週回診日に身体の状態や薬の関係について院長に報告し指示を仰いでいます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが培ってきた趣味や楽しみを最大限活かし張り合いのある生活が過ごせるよう個々のペースで支援しています。個々の好みに合った役割や活力と楽しさを実感するよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の意向を尊重し、外出や外泊は家族の希望でいつでもできるように支援しています。気分転換の為に、ドライブや野外活動を多く取り入れるように支援しています。	気候が良い時は、ホームの前にあるお宮へ散歩に行くなどしている。年3～4回、ドライブや野外活動などの遠出もしている。	

事業者名:グループホームやまもも

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の必要な品物は、面会時等を通じて家族へお願いしています。緊急の場合は家族へ連絡してから職員が代行して購入しています。特にお金の所持はしていません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月、家族へ近況のお手紙を書いて、ほうれんそう新聞と一緒に送っています。家族等からの電話や手紙の場合はプライバシーに配慮しながら個別的に支援し、より家庭的な雰囲気づくりに努めています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりの感覚や価値観に配慮した四季折々生活の場にふさわしい居心地よい空間づくりに専念するように努めています。生活感や四季感をうまく活用しながら暮らしやすい居心地良い空間づくりに努めています。	玄関にはカボスがさりげなく置かれ、手作りの季節の花を飾るなど、季節が感じられる工夫をしている。また、食堂の横に畳の部屋やソファなどがあり、気分を変えてくつろげる場所がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者個々の状態の変化等に配慮して、思い思いに過ごせるよう自室でくつろいだり席替えや畳の利用等々で仲間同士が自由に過ごせるよう支援しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の馴染みの物や趣味を活かし、好きな物を置いたり自作の作品集や写真を飾ったりして温かい雰囲気づくりに努め、本人が居心地よく過ごせるよう工夫をしています。	部屋には、各自が日々取り組んだ塗り絵や作品などが掲示している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している			

事業者名:グループホームやまもも

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容